

## ■自立促進支援の取り組み令和3年度 AMED 事業のご報告■

昭和大学発達障害医療研究所 五十嵐美紀

昭和大学発達障害医療研究所では、令和3年度より AMED 事業（研究課題：自閉スペクトラム症（ASD）当事者と家族が共に学ぶ自立促進プログラムの開発と包括的支援システムの構築）を受託し、発達障害を持つ方の自立促進のための支援について研究活動をしています。

研究の動機としては、この数年コロナウイルスの蔓延に伴い感染や濃厚接触により急に家族との生活を分断されたり、高齢の親の体調不良や死去等のさまざまなライフステージの変化で生活が立ち行かなくなるケースも散見されるようになったことにあります。

デイケアや就学・就労などの社会参加を破綻することなく、維持するためにはどのような準備が必要であるか検討し、準備性や生活力を数値化できる「アセスメントツール」やそれらをもとに高めるための「自立促進プログラム」を作成することが本研究の目的になります。

3年間かけ、1)当事者・家族に対する生活力実態・親亡き後の認識調査の実施、それらの結果とヒアリングをもとに自立促進プログラムの作成、2)生活力アセスメントツールの作成、3)自立促進プログラムの実施、4)他医療機関、ひきこもり支援センター、地域機関と連携を行っていきます。

研究は始まったばかりですが、調査はすでに行っており、多くの方にご協力をいただきました。その調査結果より当事者に回答いただいた結果の一部を紹介させていただきます。

255名(配布数448、回収率56%)から回収し、分析を行いました。

【属性】回答者の7割が20代～30代で、7割以上がASD診断(ADHDとの重複を含む)を成人になってから受けていました。また、8割が家族と同居で、3割が6か月以上のひきこもり経験を有していました。

【自立に向けての準備】「自立は必要」と9割以上の方が回答。自立は「働くこと」「経済的に他者を頼らない」と生活の基盤になるものに次いで「身の回りのことを一人ですること」「他者の助けを得る事」の回答が多かったです。自立に向けての準備として、「自己理解を深める事」「住まい・生活維持の見通しをもつこと」をしている者が多い一方で25%が「準備をしていない」と回答していました(次ページ図)。

※AMEDとは；国立研究開発法人日本医療研究開発機構



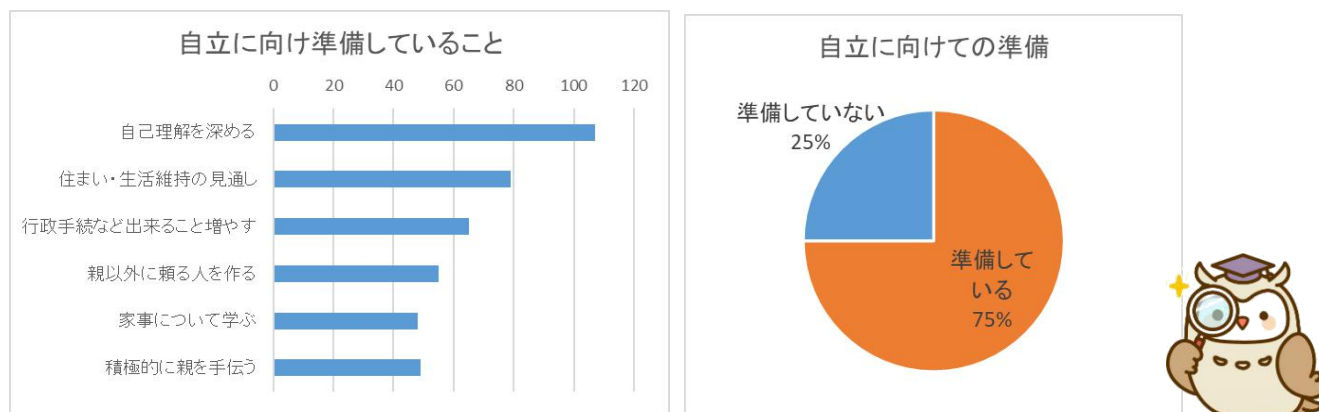
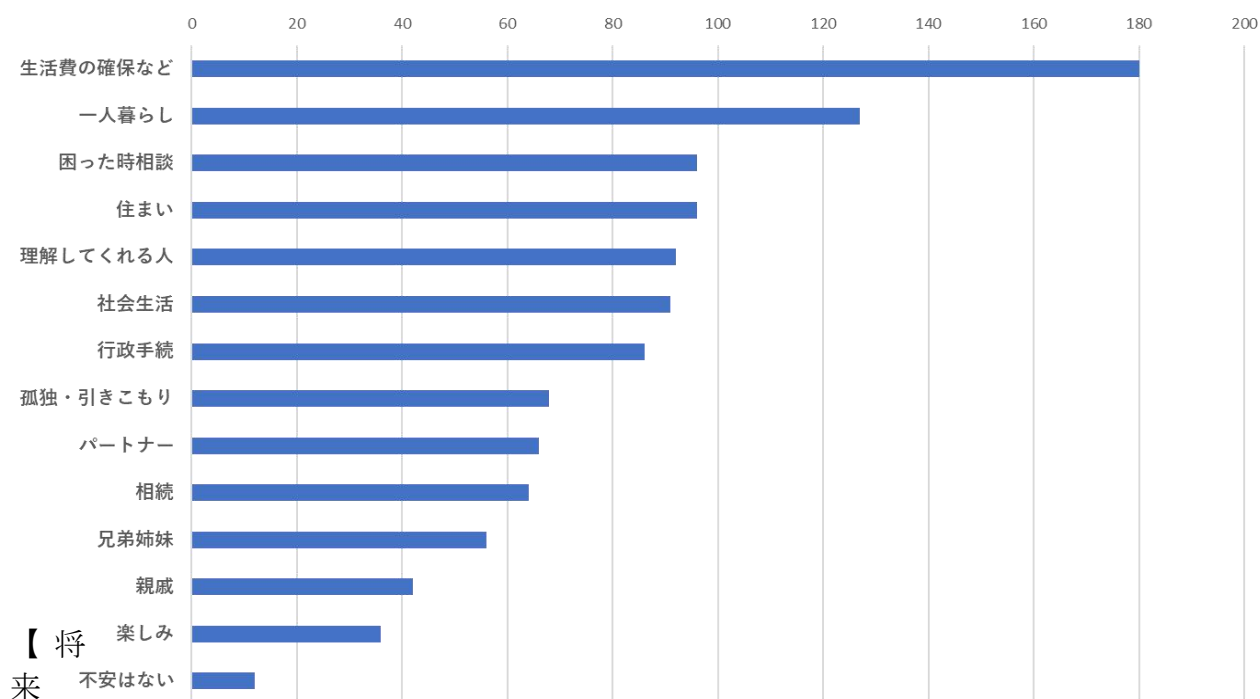


図 自立に向けての準備

【自立への不安】不安がないと回答した者は少なく、不安としては、「生活費の確保」「一人暮らし」「住まい」など生活に関する事、「困ったときに相談できるか」「理解してくれる人が現れるか」など対人関係に関する事が高値でした(下図)。

将来や自立への不安(n=252)



【将来】

【将来】の話し合い】7割が自立について家族と話し合った経験がありました。話し合う難しさは半数以上が感じているようです。難しさとしては、親の理解の乏しさ、話すタイミングや内容の難しさなどが挙げられています。

以上の結果から、多くの方が「自立が必要」「自立は不安」と回答した一方で、準備をしていない方、家族と将来のことについて話し合うことの難しさを感じている方が一定数いることが示されました。自立についての情報・見通しを示す、家族で話し合うきっかけ作りなどの支援の必要性を感じています。また、困ったときに相談できるか、理解できる人が現れるか等、人とのつながりに対し不安を持つ者が多かったことより、集団療法で支援者だけではなく、当事者同士のつながりを持つことも有効であると考えています。

今回示した結果はご家族の客観的な評価が含まれていないため、研究の進捗と合わせ改めて皆様にはご報告させていただきたいと考えています。

今年度は可視化出来るアセスメントツール作成、自立促進プログラムを実施していきます。プログラムの内容は下図を予定しています。日程等の詳細が決まりましたらデイケア内で告知してまいりますので、参加を検討してくださると嬉しいです。

本研究に限らず、鳥山東風の会会員の皆様にはこれまで多くのご協力を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。発達障害を持つ当事者・ご家族の少しでも力になれるようこれからも尽力して参ります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

		当事者	家族	
心づもり編 (認知的介入)	第1回	親亡き後を知る	親亡き後に備える	
	第2回	自分の生活力チェック	子の生活力チェック	
	第3回 合同	家事体験	家事を頼むワーク	
		3か月間の宿題設定		
実践編 (行動的介入)	第4回 合同	社労士講演「親なき後の準備」		
			3か月間の宿題確認	
	第5回	親の気持ちを知る・伝える	子の気持ちを知る・伝える	
	第6回 合同	SOSの出し方・まとめ		
フォローアップ		ピアサポート当事者グループ (近況報告など)	ピアサポート家族グループ (近況報告など)	
		ひきこもりピアサポート※		



図 自立促進プログラム案

### 「鳥山東風の会女子会」再開のご案内

コロナ禍で長らく中止していました「鳥山東風の会女子会」を再開します。

女子会は当事者と関わる母親を中心とした、おしゃべり会です。困りごとや将来への不安等、話すことで別の見方ができたり、自分の気持ちに気付いたり、他の人の話から知恵をもらったり…。今の気持ちを話す、外に出すことは親自身にも大切なことです。

世話人の私たちは専門家ではなく、医学的なこと、専門的なことはお答えできません。けれども母親同士だからこそ、不安や悩みをわかり合えると思っています。

女子会への参加申し込み、お待ちしております。

■鳥山東風の会女子会 5月28日(土) 午後1時30分～午後4時  
鳥山病院 リハビリテーションセンター

■申し込みは下記より

鳥山東風の会携帯 080-3009-1200 [kochinokai@au.com](mailto:kochinokai@au.com)

鳥山東風の会ホームページ/お問い合わせコーナー <https://www.kochinokai.com/>

■参加当日は、コロナクラスターが発生した際の対策の為、お名前、住所等の連絡先の記載をお願いしております

※申し込み期限は開催日の前日まで

※コロナの感染状況により開催を中止する場合があります、随時HPでお知らせします





## ■「烏山東風の会」今後のスケジュール ■

東風の会では、感染状況を見つつ、十分な感染対策をしたうえで一部の活動を再開することになりました。

### ■ 講演会 「親あるうちに聞いておきたいこと」～「成年後見制度と民事信託を中心に」～

講師：根本 雄司先生\_弁護士法人港大さん橋法律事務所 弁護士

日時：4月9日(土) 受付\_13:30 講演\_14:00～16:00

会場：昭和大学附属烏山病院リハビリテーションセンター

※聴講申し込みは下記をお願いします。

### ■ 家族相談会 4月20日(水)/5月18日(水)午後1時30分～午後4時

烏山病院 発達障害医療研究所ダイルーム

専門家ではありませんが、同じ親の立場として家族会世話人がお話をおうかがいします。

### ■ 世話人会 4月23日(土) 5月28日(土)午後1時半から

会員の方の見学、ご参加をお待ちしています。

◇講演会/相談会/世話人会の申し込み・お問合せ先

：「烏山東風の会」携帯 080-3009-1200 [kochinokai@au.com](mailto:kochinokai@au.com)

：「烏山東風の会」ホームページ：<https://www.kochinokai.com> お問い合わせコーナー



## ■ 会費振込のお願い ■

この会報誌は「烏山東風の会」に入会している方にお配りしています。4月より新しい年度になりますので、新年度の会費につきまして1年分6000円、または半年分3000円を、以下のいずれかの銀行口座にお振り込みいただくようお願い申し上げます。

① 三菱UFJ銀行 永福町支店 (普) 0106550

「烏山東風の会 会計 黒田邦夫」

② ゆうちょ銀行 記号・番号：10000-29576521 「烏山東風の会」

お問い合わせ：黒田邦夫 090-4173-7604



## ダイケア写真館

東風の会委員の活動紹介

委員会活動のプログラムでは、東風の会委員、環境委員、広報委員、情報委員、ダイケア便り委員の5つの委員に分かれて、毎週金曜日の10時から11時20分まで活動しています。

わたしは東風の会委員に所属しています。東風の会の活動内容は、記事作成(今書いているもの)、切手貼り、はんこ押し、封入作業、在庫確認、白封筒作りです。東風の会メンバーは多い時に3人で、150枚を超える切手貼り、はんこ押し、封入をしています。また、在庫確認も数を確認しながら、切手はちゃんと貼られているか、はんこは押されているかの確認もしています。はんこの確認では、住所の最後の番地の部分が消えていることもあるのでチェックも欠かせません。会報誌もきれいに折って向きを確認しながら封入しています。最後の糊付けも過不足なく、つけなければならないので、わたしは台紙を敷いて気をつけながら作っています。(A.A)

